

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091601205
法人名	株式会社さくら苑
事業所名	グループホームさくら苑式番館 (ユニット名 1階)
所在地	福岡県久留米市江戸屋敷1丁目11番1号
自己評価作成日	令和3年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和3年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は久留米市内でも特に高齢者単独世帯が多い地域に平成28年11月に開業し、地域の中の認知症を患われてしまった方々の住む「家」として事業を行っている。ご利用者様が地域に暮らす一人の住民として暮らしていけるよう支援しており、日々の散歩や地域の行事にも参加している。ご利用者様の認知症の症状、身体の状態はそれぞれでも、互いが互いを必要と同じ「いえ」に住む疑似家族として生活を支援している。数名のドクター及び訪問看護ステーションとの連携により、ターミナルケア、お看取りの支援も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅地にある。近くには小さな川が流れ、季節の花なども楽しめる環境となっている。設計段階から職員の思いや意見などを反映しており、浴室やトイレなどに工夫がなされている。法人代表が広域にわたる活動をしていることから、行政とも連携を取りながら認知症介護事業に熱心に取り組み、利用者も家族も職員も満足できる事業所を目指している。コロナ禍の中において、利用者と家族の面会を規制する風潮にありながらも柔軟な発想のもと対応できることを模索したり、日頃の暮らしぶりや行事の様子を撮影した1年分の写真を動画にまとめたDVDを家族に配布したりしている。近くの店舗に買い物にでかけ支払いなども利用者がする様子を地域の方に見てもらうことを通して、認知症についての理解を深めてもらう機会としている。今後も地域における取り組み展望があり、これからますます期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の介護理念は、法人の理念であり、この理念が実践できるように努めている。事業所のケア理念、年間の事業目標も立て、職員には全体会議等で説明している。	開設当初より法人の介護理念のもと支援に取り組んできている。前回の外部評価受審後に、事業所としてのケア理念を作成しており、朝礼などで唱和をして理解を深める機会としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、夏祭り(コロナ感染症でここ2年間は中止されている)や地域の掃除への参加を通じ、地域の一員としての交流を深められるように努めている。	地域の行事等は中止になっているため利用者と一緒の参加などの事例はないが、町内清掃や夜警には職員が参加している。福祉事業所との交流の一環としてリネン交換や清掃などに入ってもらったりしている。駐車場スペースを地域に開放して活用していただく予定がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター開催の認知症サポーター養成講座で講師を務めるとともに、他の事業所と共に意見交換会などにも参加し地域課題の掘り出し、地域に対して何ができるのかを模索している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より、運営推進会議の実開催は出来ていないものの、書面にて運営の報告やヒヤリハット、事故報告など各方面へ報告している。	市役所担当課や地域包括支援センター、自治会長、自治会理事等に会議に参加してもらっている。書面開催としており、法人代表の活動報告や事業所の行事等報告をしている。近隣の事業所とも運営推進会議の相互参加など交流をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人の代表者が久留米市介護福祉サービス事業者協議会の理事長を仰せつかっており、グループホームに限らず、久留米市内の事業所の実情、行政としての指導等、協力関係を築けている。	市の担当課とは法人代表者が行政と一緒に仕事をしていることもあり、良好に連携を取りあえている。入居情報の問い合わせなどもあり、包括支援センターとも連携をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関とフロアのカギは施錠しておらず、夜間のみの施錠している。フロア入口にはセンサーを設置し、フロアから出られる入居者様がおられる時はスタッフも同行し行動は制限しないようにしている。	年間の社内研修計画にも身体拘束の排除のための取り組みに関する研修を組み入れてあり、職員は学習の機会がある。言葉による行動の制止等もお互いに気を付け合うようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や社外研修で学ぶ機会を設け、身体拘束適正化委員会でも虐待につながりそうな事例の報告、話し合いを行い、苑内での虐待が見過ごされないように努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑の玄関に、成年後見人制度のパンフレットを置き、誰もが手に取れるようにしている。事業所に後見人が選任されているご利用者様がおられ、制度利用が必要だと思われるご利用者様には、ご説明を行うなど支援している。	権利擁護に関する制度については、現在、成年後見制度を活用している事例がある。職員はおおむね制度の理解が出来ている。制度の活用が必要だと思われる場合には、橋渡しをできる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に見学、相談を重ね、納得して頂いたうえで入居して頂くようにしている。入居後も、面会時などにお話をする機会を設け、交流し相談がしやすい雰囲気づくりに努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で体調などに変化があった際にはお電話で、面会時には日ごろの様子をお伝えし、ケアプランの更新時期にはご家族の意見をお聞きし、反映するようにしている。	家族にはこまめに連絡を取っているため、その時に要望等を聞き取るようにしている。食事の介助を希望する家族からの要望については、会議室として活用している部屋を面会室にして応じている事例がある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング内でスタッフの意見を聞く機会を設け、管理者は運営会議で会社へ伝え意見を反映している。年1回全体会議を行い、スタッフからの直接の意見も聞けるようにしている。	利用者にとっての家であるという認識のもと、日頃より気付いたことなどは話し合いができています。法人内のもう一つのグループホームとの間で職員異動をする場合はあるが、利用者への影響が出ないように心掛けている。新しい職員についてはお便りでお知らせをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系、職能給基準を明確化した上で、管理者が評価し、代表者へ申し出るシステムを構築。自己評価を含め各職員がやりがい・向上心が持てるように配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては、国籍、性別、年齢は問わず人柄を重視している。	職員の採用にあたってはとくに条件などは設けられておらず20歳代から60歳代までの職員が勤務している。来春は福祉系高校の新卒者を採用の予定である。必要な研修には勤務扱いとして参加できおり報告書の提出をもって手当をだしている。家庭の事情にあわせた勤務形態も相談可能で、勤務年数の長い職員が半数以上いる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内、社外での人権の研修に積極的に参加するように努めている。	外部研修についてはオンライン研修でも参加がしやすいように会議室にモニターを設置したり、社内研修に参加ができない職員のために録画視聴ができるようにしたりして学習の機会を作っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	外部研修、法人内研修を開催し、多くの職 員が参加し、研修報告書を提出し、ミーティ ング内でも共有し、職員それぞれが自己の 研鑽に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	久留米市介護福祉事業者協議会の総会、 その他の研修会などを通じ、他の事業所と の交流に努めサービスの質の向上に努め ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の会話soap式に記録している。ご利用者様 の言葉をそのまま記録に残し、その方の考えや 思いを知り、ご意向や要望等をミーティングを通 じて、職員間で共有している。ご利用者様・ご家 族様のご意向を出来る限り実現出来るように取り 組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	体調不良時はもちろん、些細なことも気づき がある際は、ご家族様にその都度 連絡・ 報告し、面会時にもご家族様に近況報告を 行う等、信頼関係が深まる様に努めてい る。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入する段階で、ご利用者様・ご 家族様、職員と面談し、ご意向や希望等を 確認しながら、必要時は訪問歯科や訪問 マッサージ、訪問診療等の必要なサービス を利用出来るように対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯畳みや調理等、ご利用者様が出来る 事は職員と一緒にいき、役割を持った生活 が送れる様に取り組んでいる。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご利用者様やご家族様、職員と意向や希望 等を話し合う機会を作っている。ご利用 者様の今の課題等について共に考え、それ ぞれの意向のすり合わせを行いながら、ご 利用者様を支えて行ける様にご家族様との 関りを密に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔、職場で一緒だった同僚の方や親交のある友人の方々など、馴染みの関係が途切れない様に面会等を通じて支援している。	現在の利用者は買い物を好む方が多く、近隣のコンビニエンスストアやドラッグストアに散歩がてら出かけており、顔なじみの場所になっている。以前は孫の結婚式に参加したいということでケアマネジャーが付き添った事例があり、可能な範囲で要望に応じている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが声かけを行い、仲の良いご利用者様同士と会話ができる様に席の配慮したり、レク活動等を通じて、ご利用者様同士の良好な関係を作りながら、トラブル防止に努め、より良い関係作りに取り組んでいる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご入居様の退居後もご家族にお便りを出したり、催し物に出演依頼をお願いしたり、ご家族様から相談時は対応したりと関係性を断ち切らない取り組みを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの見直し時等、ご利用者様とご家族様のご意向を反映している。日頃の様子観察を行い、希望や意向を把握する様にしている。	家族に利用者本人の生活歴を書いてもらう書式を準備している。利用者に担当職員を決めており、日常の会話や生活の中で、利用者の言葉や表情を職員間で情報を共有している。意向が伝えられない利用者は、以前の生活や家族の意見等から意向の把握をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族様から生活歴等の情報を頂いたり、ご入居様からも聞き取りを行いながら、これまでの暮らしの把握を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子を記録し、ご利用者様の体調の変化や異常があれば職員間で情報共有出来る様に、個別ノートに書き、主治医からの指示等も記録している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様やご家族様の意向を把握し、月1回のカンファレンス会議で、各職員から意見やアイデアを出し合い、チームで介護計画を作成している。	月1回ミーティングとカンファレンスを行い、介護計画が適切に取り組めているか、職員が意見を出しあっている。利用者と家族の意向に沿っているのか検討し、状態の変化があれば見直しができる体制がある。参加できない職員からは事前に意見をもらったり、むくみや便秘など往診時に医師にたずねたりして計画に反映した事例がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子を記録し、申し送りや個別ノートで情報を共有している。気づいた問題点を職員間で検討し、ケアプランの見直しにも活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状況やご家族様の希望に応じて、訪問マッサージを取り入れたり、ネット配信でご利用者様とご家族様がつながる等、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	就労支援のボランティアの方を受け入れたり、コロナ禍において地域との関りは少ないが、通常は地域の床屋、飲食店を利用して日々の生活を楽しまれる様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、ご家族様の希望に応じて、継続されたり、主治医の変更の相談も受けながら、適切な医療が受けられる様に支援している。	利用者や家族が希望する主治医を継続して利用できる。事業所の協力医が4ヶ所あり、もともと主治医の方が入居したり、入居をきっかけに協力医になってもらったこともある。眼科・歯科・薬局の訪問があり健康管理を行っている。受診には職員も家族と一緒に行くことができ、診察結果などは職員間で情報の共有をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、バイタルチェックやご利用者様の変化を記録し、全職員で共有し、看護師、かかりつけ医の報告・連絡を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、医療関係者と情報交換を行い、ご家族様とも連携を取りながら退院時に安心して生活が送れる様に支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にお看取りまで行っていることを説明している。重度化や終末期になられた時に、主治医や訪問看護ステーション等と連携し、ご家族様と情報を共有しながら、ご意向に添える様に苑で出来る限りの支援に取り組んでいる。	開設当初から、法人全体で60名ほどの看取り経験があり、職員は医療関係者と連携を密に取り、落ち着いて家族とともに関わる体制ができている。コロナ禍の中でも、家族が最後まで寄り添えるように支援している。職員全員で最後までお見送りをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	お一人お一人のご利用者様の主治医や看護師から、予測される急変への対処方法を事前に確認し、全職員に周知している。また、フロアにマニュアルを準備しており、皆で情報を共有しながら実践力が身に付くように努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の職員の立ち合いのもと、年2回定期的に防災訓練を行っている。また年1回は水害訓練を行い、垂直避難や避難経路の確保に努めている。	事業所所在地は市内でも高い土地になっているが、雨量の多い時には早めに垂直避難をするようにしており、今年は3回実施している。避難災害対策の委員があり、備蓄品の確保や管理をしている。施設の隣に駐車場の土地を確保し、近隣の方が避難ができるように整備していく計画がある。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護理念に基づきご利用者様の尊厳を大切にしつつ、謙虚な姿勢で一人ひとりに敬愛の念をもって言葉かけや対応を行っている。	日々の暮らしの中で、特に排せつ場面での声掛けは、言葉使いや声の大きさに配慮しながら対応している。職員は日常の支援においても、利用者の尊厳に配慮した関わりを心がけている。個人の記録などについてはパソコン入力や書類管理をしており、外部の方の目に触れないようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望を伺うことの他に、選択が困難な方にはご家族にもご相談して選択肢を絞ることで自己決定できる環境づくりを努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望が聞かれた際には希望に沿った支援ができる様に段取りを行い、ご利用者様のペースで日常生活を送られる様に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には洗面、清拭、髪ブラッシング、髭剃りなどの整容を行っている。また、定期的に訪問理容師に来ていただき、希望者は散髪を行っている。ご家族と行きつけの美容室に行かれている方もおられる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その時々旬の食材を、見て頂いたり触っていただいたり、出来る方には皮むきなどお願ひし、後片付けなども喜んで参加して頂いている。	調理担当職員があり、彩りや盛り付けも配慮がなされている。月に2回小豆ご飯やパン食もあり、食器は利用者が自力で食べられるような工夫がある。おいしく食べるため、義歯の調整も受けている。レクリエーションの一環で季節の行事に合わせた食事やおやつ等も提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えたメニューを考え、一人ひとりに合った食べやすい形状にし、水分量なども表を用いて、一日の適切な接種の確保に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを支援し、出来る方にはご自分で、出来ない方にはその方に合った方法で介助を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を確認出来る表を使い、排泄のパターンを知り、時間を見て声掛けをしたり、オムツ交換をしたり支援を行っている。	利用者ごとに、排せつの声掛けを行い、自分でトイレに行ける方は場所がわかるような掲示をしたり、見守りをしたりしながら支援している。オムツ業者による研修を開催して、尿漏れや皮膚に負担がないようなあて方や介助方法を学んでいる。トイレは利用者の機能が活かせ、介助がしやすいスペース・設備となっている	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の排便のリズムをつかみ、運動や食物繊維の多い食事を心掛けている。水分摂取量も毎日計測し、水分が不足し便秘にならないように支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は身体の観察や清潔保持の為だけではなく、お一人おひとりのゆったりとした時間と空間を提供し、心身ともにリラックスできるように支援している。	週2～3回の入浴ができるよう支援をしている。終末期でも浴槽に入れるように、機械浴槽を設置している。浴室内で着替えをする際に、利用者が転倒しないように手すりの設置を職員が設計提案をしている。家族が保湿剤を準備している方には、同じものを代理購入して個々に沿った支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の睡眠リズム、体調や心身の状態の変化に応じ、休息して頂き、時間や空調、明るさなどにも配慮し支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用はもちろん、過剰に作用していないかご利用者様の状態を常に観察し異常があれば医師との連携を図っている。お薬のファイルを作成し、スタッフがすぐに確認できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様、ご自身の力を生かし役割をもって生活されること、趣味で気分転換ができる様に支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望は日ごろの会話から聞き出し、レクリエーションで外出の支援を行い、ご家族様とも一緒に希望の場所へ出かけられる様に支援している。	近隣の商業地に月1回外出を行ったり、近隣の文化センターに花見に行ったり、観光施設や市役所のレストランにも出かけたりしていた事例がある。初詣の計画を立てているところで、日常的にも外気にふれる機会をつくっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金はトラブル防止の為に事務所で預かりしている。ご希望があれば、ご家族にお尋ねして嗜好品などが購入できるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、電話を掛けるお手伝いをし、お話ししていただいたり、LINE電話でビデオ通話をしたりとご家族と交流ができる様に支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間づくりの為に、室温、湿度の調整には配慮し、壁には季節の飾りをする様にしている。定期的な換気、テーブルや手すりなど触れる部分の消毒も行い清潔を保っている。	共有の空間は、臭いもなく掃除や消毒を定期的になされており、利用者が季節を感じられるような掲示物がある。居間は床暖房設備となっており、移動しやすい空間があり、テーブルも大きくゆっくり座れる。玄関ホールも広く、清潔で明るい。水分摂取量を計測する目的もあり給茶機を設置している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の性格や身体機能などを考慮し、トラブルが起きないように席の配置に気を付けている。ソファでゆっくり過ごされたり、ご利用者様同士楽しく会話されたり、一人ひとりにあった居場所作りが出来ている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅で使われていた家具や見慣れた小物を置き、ご家族ととられた写真や手紙、ご自身で塗って頂いているカレンダーなどを飾り、心地よく過ごせる環境づくりに努めている。	居室はそれぞれの利用者が、使い慣れた家具を配置している。仏壇を持参され法事を行うことにも応じていたり、家族の写真や習字作品等を飾ったりしている。利用者が家として安心して生活ができる配慮がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様一人ひとりの身体機能や認知機能を把握し、家具や席の配置を考慮し、共用場所や居室をわかりやすく表示することで自立した生活ができる様に支援している。		